

春日部市新水道事業ビジョン (経営戦略) の改定について

令和7年3月25日(火)午後1時30分
春日部市 上下水道部 経営総務課
春日部市役所 本庁舎2階 会議室202

目次

- | | |
|--------------------------|-----|
| 1. 収支計画の検証(経営戦略との比較) | P1 |
| 2. 経営指標から見た分析(類似団体平均と比較) | P7 |
| 3. 目標値の達成状況 | P20 |
| 4. 水道施設整備における基本方針 | P23 |

1. 収支計画の検証(経営戦略との比較)①

計画値と実績値について 過去6年間の総額(単位:百万円)

| 科目 | | 計画値(H30-R5) | 実績値(H30-R5) | 乖離(実績値-計画値) | 乖離率 | |
|----------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------|---------|
| 収益的収支 | 収益的収入 | 営業収益 | 24,106 | 22,914 | ▲ 1,192 | ▲ 4.9% |
| | | 営業外収益 | 2,266 | 2,399 | 133 | 5.9% |
| | | 特別利益 | - | 127 | 127 | - |
| | 収益的支出 | 営業費用 | 22,864 | 23,101 | 237 | 1.0% |
| | | 営業外費用 | 674 | 680 | 6 | 0.9% |
| | | 特別損失 | - | 24 | 24 | - |
| 当該期間純利益計 | | 2,834 | 1,635 | ▲ 1,199 | ▲ 42.3% | |
| 資本的収支 | 資本的収入 | 企業債 | 2,925 | 2,132 | ▲ 793 | ▲ 27.1% |
| | | ほか財源 | 1,733 | 1,694 | ▲ 39 | ▲ 2.3% |
| | 資本的支出 | 建設改良費 | 11,876 | 8,570 | ▲ 3,306 | ▲ 27.8% |
| | | 企業債償還金 | 3,046 | 2,883 | ▲ 163 | ▲ 5.4% |
| | | その他 | - | 1 | 1 | - |
| | 当該期間資本的収支差引 | | ▲ 10,264 | ▲ 7,628 | 2,636 | ▲ 25.7% |

①収益的収支

当該期間純利益の総額が計画より、6年間で **約12億円(▲42.3%)** 減少

②資本的収支

当該期間資本的収支差引の総額が計画より、6年間で **約26億円(▲25.7%)** 縮減

1. 収支計画の検証(経営戦略との比較)②

給水収益推移について(単位:百万円)



令和2年度は新型コロナウイルスに対する支援策として減免措置を実施したこと、及び計画では令和4年度に料金改定を見込んでいたことなどにより、給水収益は計画を下回りました。

1. 収支計画の検証(経営戦略との比較)③

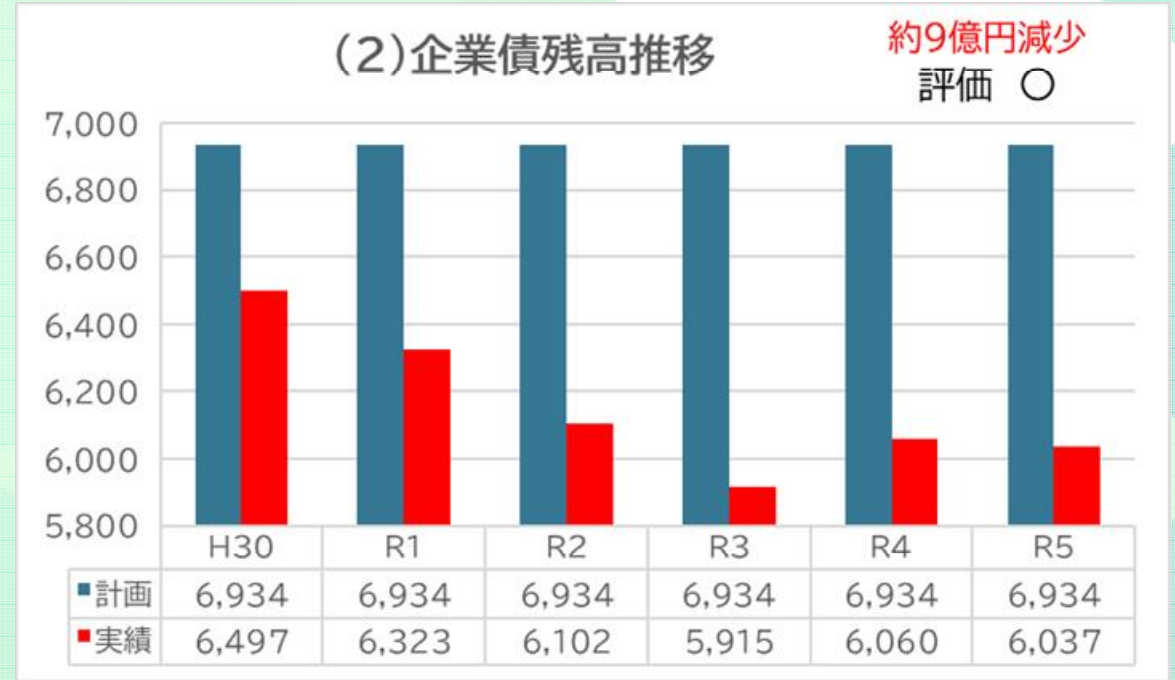
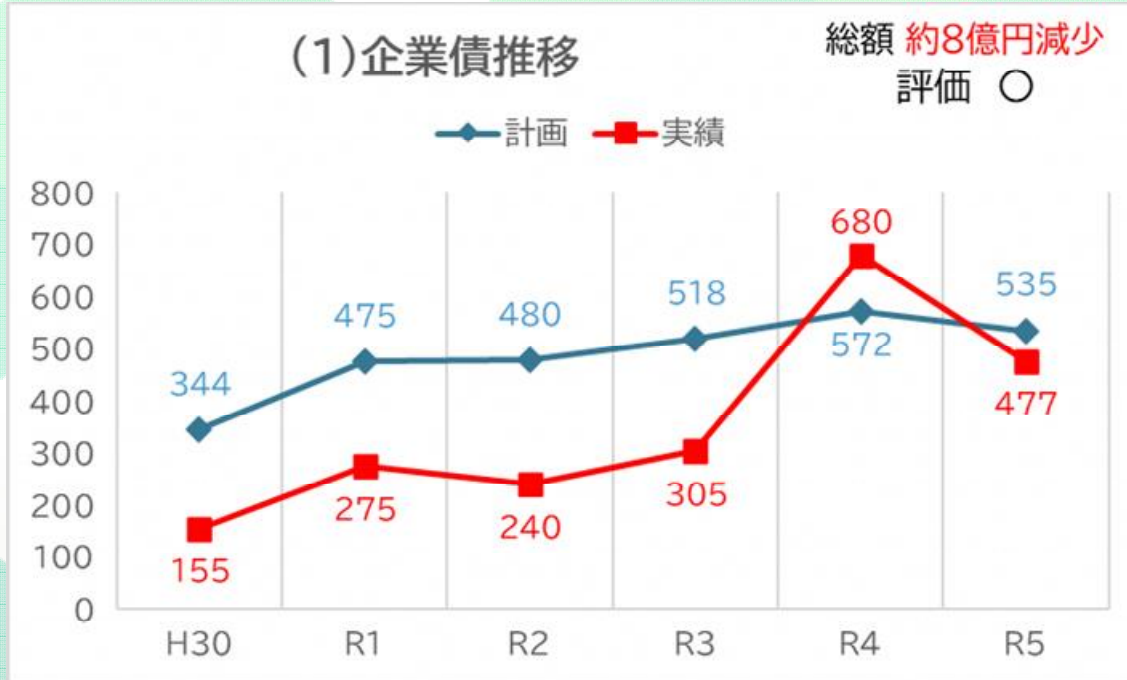
建設改良費推移について(単位:百万円)



令和3年度に計画されていた東部浄水場配水池築造工事の時期を他事業との調整により見直したことなどにより、建設改良費は概ね計画を下回って推移しました。

1. 収支計画の検証(経営戦略との比較)④

企業債・企業債残高推移について（単位：百万円）



(1) 企業債

新型コロナウイルスの影響により工事実施時期を変更したこと、及び企業債借入額を抑制したこと等により、企業債は概ね計画を下回りました。

(2) 企業債残高

企業債の借入を抑制したこともあり、企業債残高は計画を下回る水準に削減することができました。

1. 収支計画の検証(経営戦略との比較)⑤

資金残高推移について(単位:百万円)



新型コロナウイルスの影響や他事業との調整により工事実施時期を変更し、建設改良費が計画よりも少なく推移したことにより、資金残高は計画値を上回って推移しましたが、給水収益の減少等により計画値と同様に減少傾向にあります。

1. 収支計画の検証(経営戦略との比較) まとめ

平成 30年3月に策定した経営戦略における「投資・財政計画」に対する過去6年間の実績をまとめると以下のとおりです。

○収益的収支

収益的収入：料金改定時期の見直しなどにより約9億円(▲3.5%)減少

収益的支出：近年の物価高騰等により約3億円(1.1%)増加

当該期間純利益：主に収益的収入が減少したことにより約12億円(▲42.3%)減少

○資本的収支

資本的収入：建設改良費の減少に伴う企業債借入の抑制により約8億円(▲17.9%)減少

資本的支出：新型コロナウイルスの影響や他事業との調整により約35億円(▲23.2%)減少

当該期間資本的収支差引：資本的支出が抑えられたことにより約26億円(▲25.7%)縮減

投資面では、期間中、新型コロナウイルスの影響により、計画通りに工事を進められない時期等もありましたが、概ね順調に事業を進めることができました。

財政面では、給水収益が伸び悩む中、実施時期を変更した東部浄水場配水池築造などの今後の更新工事に向けた資金の確保が大きな課題といえます。

2. 経営指標から見た分析 (類似団体平均と比較)

比較する経営指標について

| 指標 | 評価内容 | 評価 |
|---------------|------------|--------|
| ・経常収支比率 | 経営の健全性・効率性 | 高い方が良い |
| ・累積欠損金比率 | | 低い方が良い |
| ・流動比率 | | 高い方が良い |
| ・企業債残高対給水収益比率 | | 低い方が良い |
| ・料金回収率 | | 高い方が良い |
| ・給水原価 | | 低い方が良い |
| ・施設利用率 | | 高い方が良い |
| ・有収率 | | 高い方が良い |
| ・有形固定資産減価償却率 | 老朽化の状況 | 低い方が良い |
| ・管路経年化率 | | 低い方が良い |
| ・管路更新率 | | 高い方が良い |

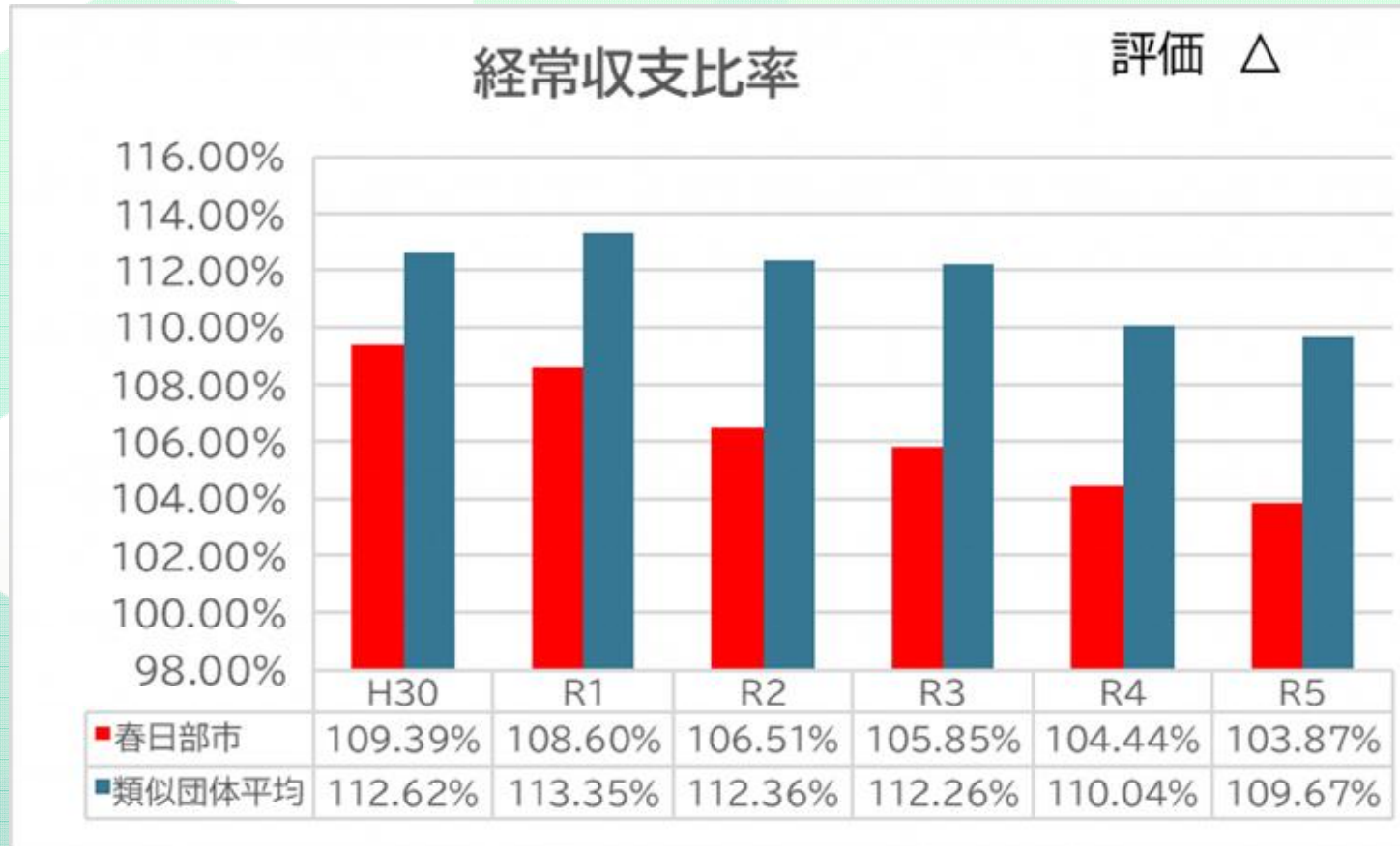
類似団体について

類似団体は、春日部市の給水人口と概ね同程度となる以下のような団体になります。

- ・給水人口 15万人以上30万人未満の団体
- ・全国で72団体
- ・県外では函館市や水戸市、小田原市、長野市、岸和田市、下関市、佐賀市などが該当
- ・県内では熊谷市、上尾市、草加市、新座市、久喜市、坂戸、鶴ヶ島水道企業団が該当

2. 経営指標から見た分析① (類似団体平均と比較)

経常収支比率 (単位：%)



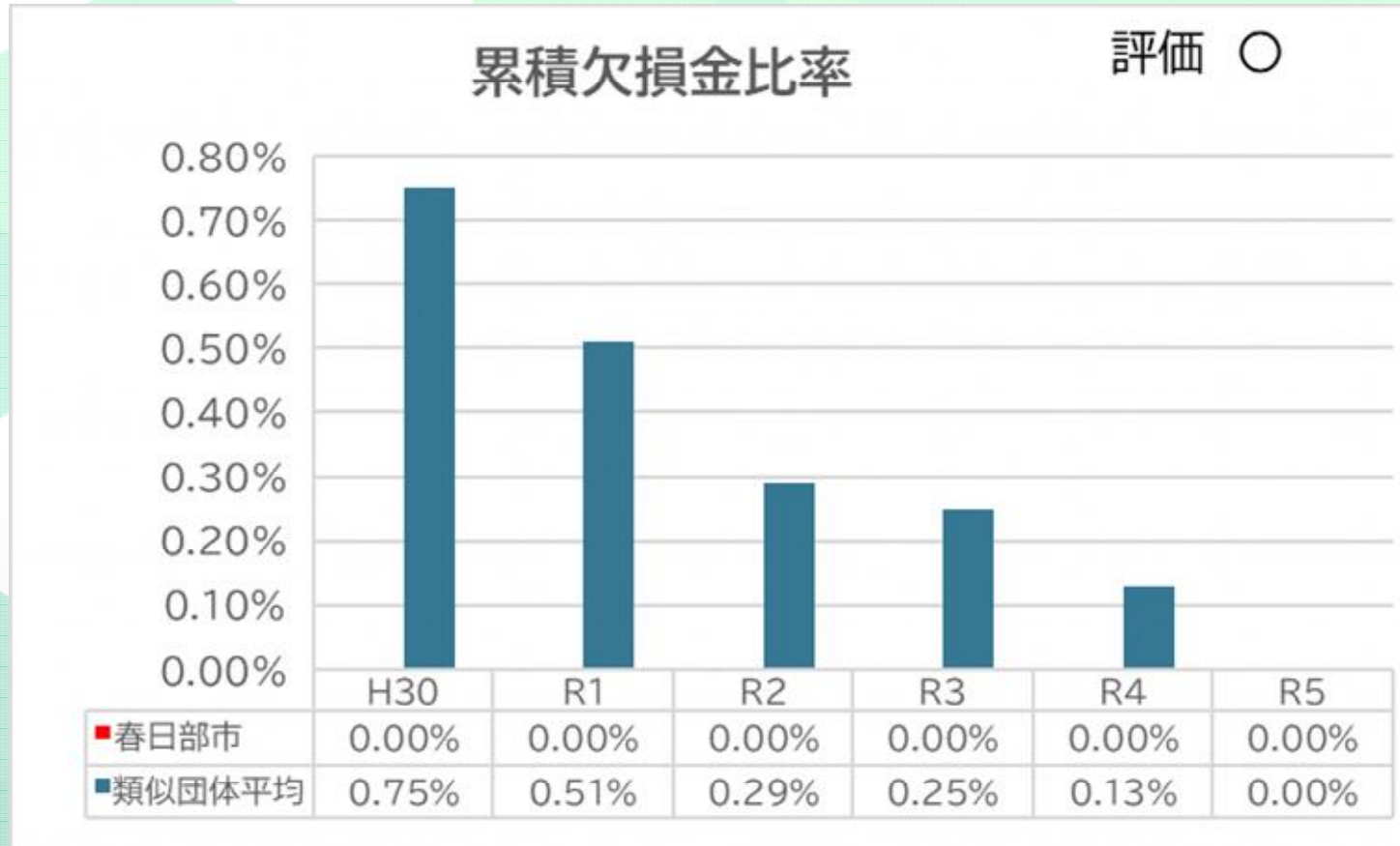
給水収益や手数料などの収益で、維持管理費や支払利息などの費用をどの程度賄えているかを表す指標です。

100%以上であれば、収益で費用を賄える状態であることを表すことから、100%以上の高い値で推移することが望ましい指標です。

経常収支比率は、過去6年間100%以上で推移していますが、類似団体平均を下回っています。今後増加する更新事業を考慮すると、現状の100%以上の水準を維持することが課題となります。

2. 経営指標から見た分析② (類似団体平均と比較)

累積欠損金比率 (単位：%)



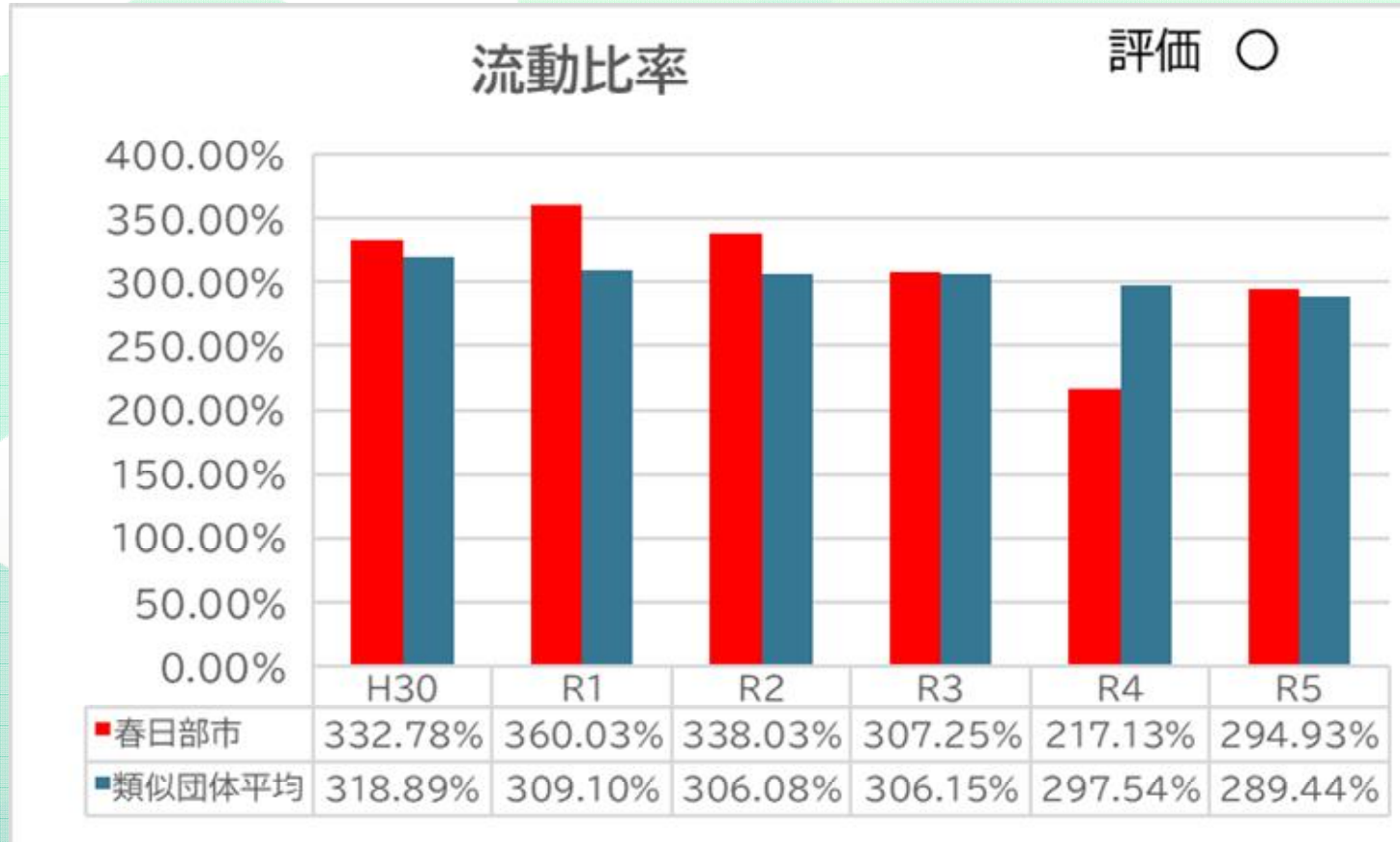
営業収益に対する累積欠損金(累積赤字)の状況を表す指標です。

累積欠損金は無い方が良いことから、この指標は低い方がより良い状況であることを表します。

現状で累積欠損金は発生していません。今後もこの経営状態を維持していく必要があります。

2. 経営指標から見た分析③ (類似団体平均と比較)

流動比率 (単位：%)



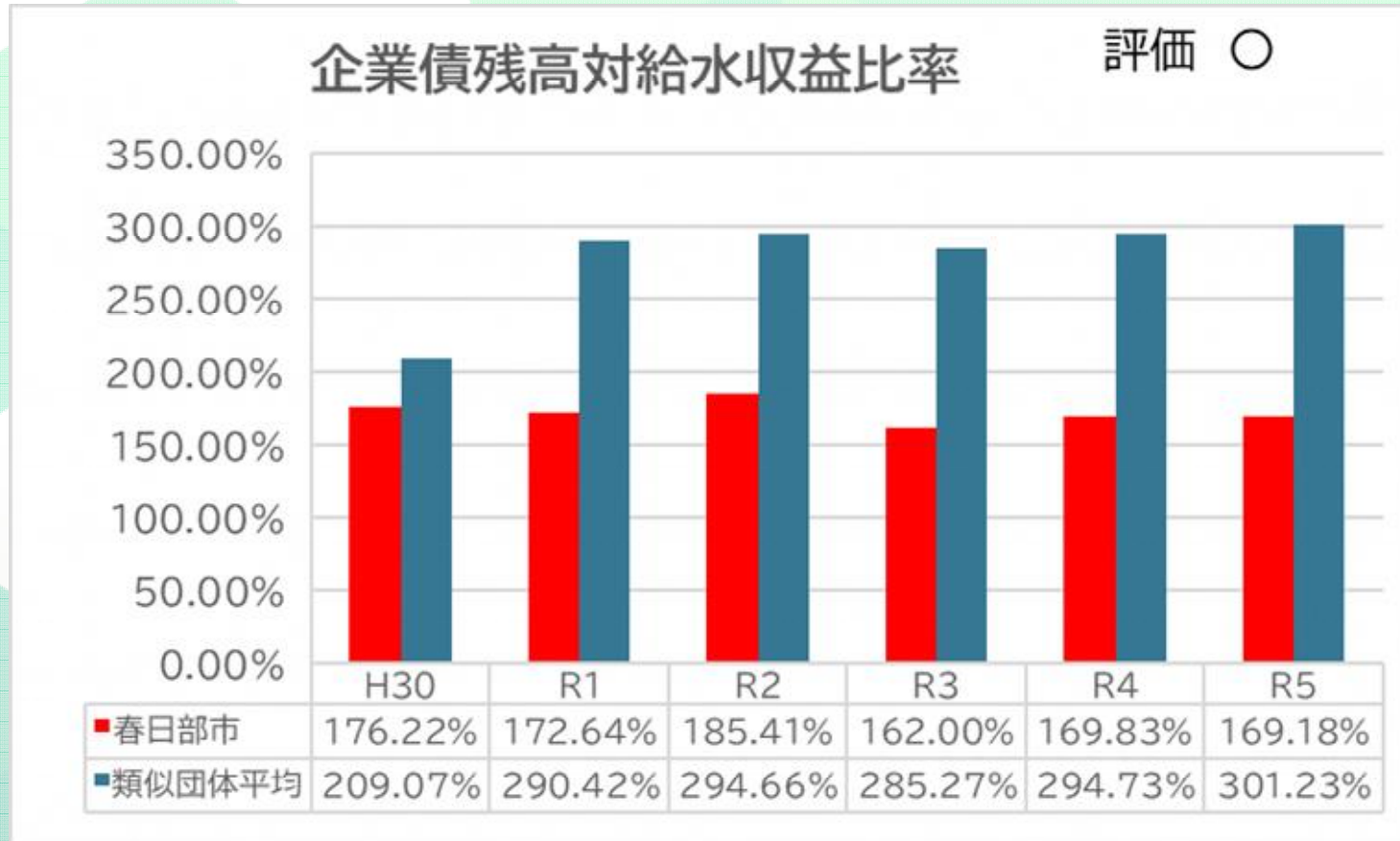
1年以内に支払うべき債務に対する現金資金等による支払能力を表す指標です。

100%以上であれば、1年以内に支払うべき債務より多くの現金等を確保していることを表すことから、100%以上の高い値で推移することが望ましい指標です。

過去6年間では、100%を大きく超え、類似団体平均と概ね同程度で推移しています。資金の確保状況としては良好な状況にあることから、今後も現状程度を維持していく必要があります。

2. 経営指標から見た分析④ (類似団体平均と比較)

企業債残高対給水収益比率 (単位：%)



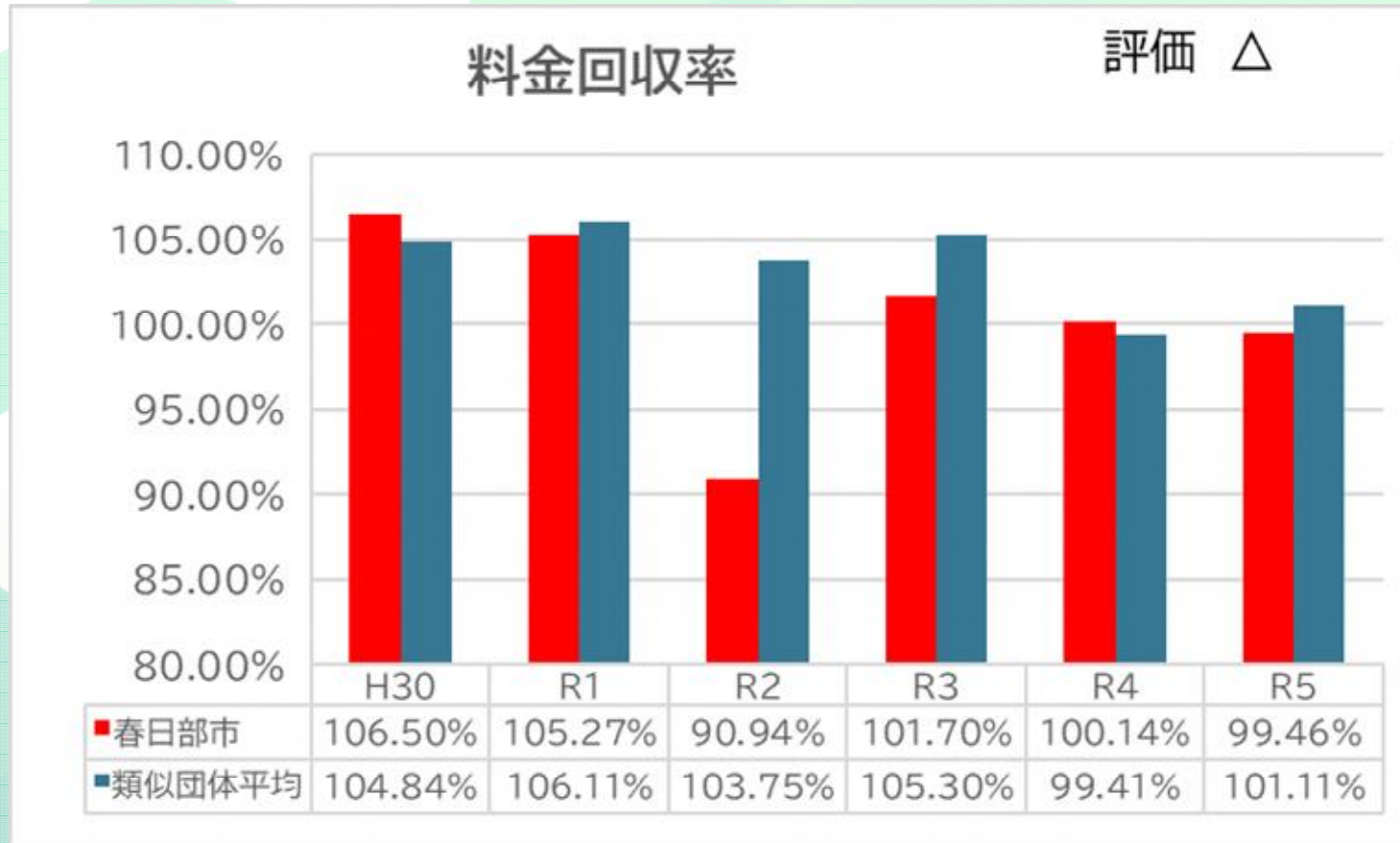
給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。

企業債の借り入れ残高が少ない方が財政上では良いことから、この指標は低い方がより良い状況であることを表します。

企業債借入を抑制したことなどにより、過去6年間で類似団体平均を下回って推移しています。企業債は今後増加する更新事業の財源として必要になることから、企業債残高を適正に管理する必要があります。

2. 経営指標から見た分析⑤ (類似団体平均と比較)

料金回収率 (単位：%)



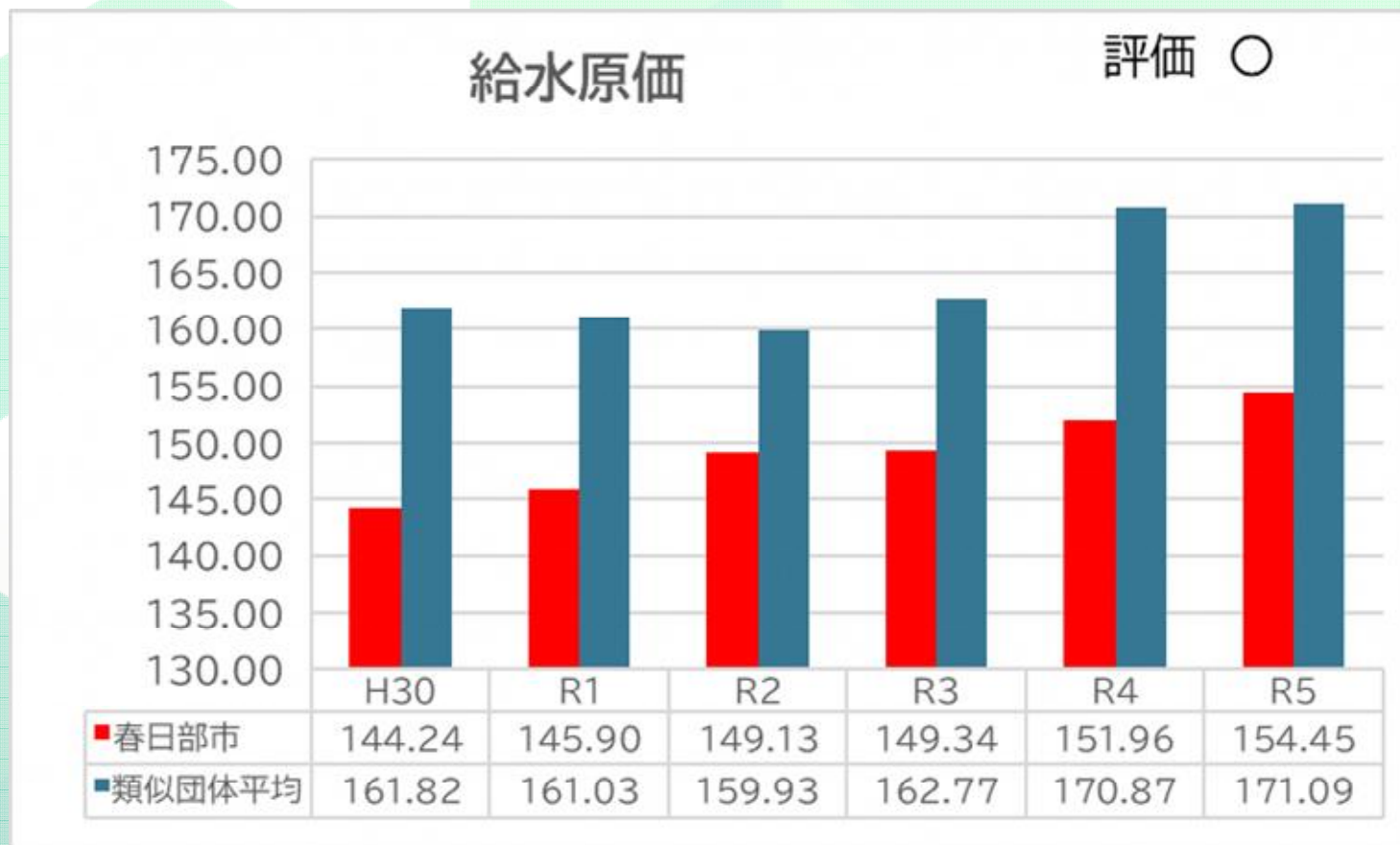
給水にかかる経費を給水収益でどの程度賄えているかを表す指標です。

100%以上であれば、給水収益で給水にかかる経費を賄える状態であることを表すことから、100%以上の高い値で推移することが望ましい指標です。

過去6年間では概ね類似団体平均を下回って推移しています。直近の令和5年度には100%を下回っていることから、一層の費用の抑制や収益の確保が課題となっています。

2. 経営指標から見た分析⑥ (類似団体平均と比較)

給水原価 (単位: 円/m³)



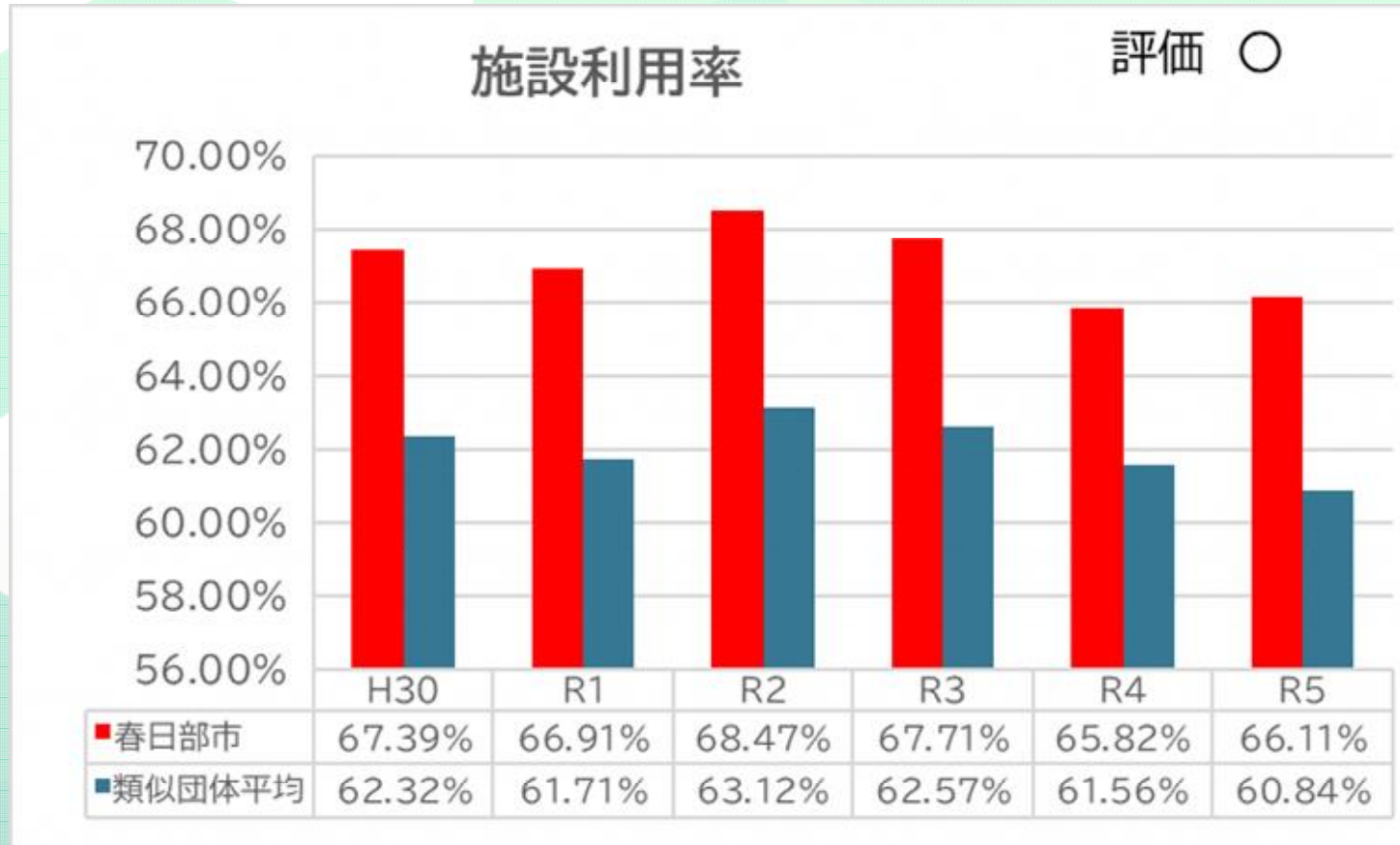
有収水量1m³当たりの給水に要した費用であり、給水にかかるコストを表す指標です。

給水にかかるコストを表すことから、この指標は低い方がより良い状況であることを表します。

過去6年間で類似団体平均を下回って推移しています。ただし、近年の物価高騰等により増加傾向にあり、今後も増加傾向が見込まれることから、一層の費用の抑制を検討する必要があります。

2. 経営指標から見た分析⑦ (類似団体平均と比較)

施設利用率 (単位：%)



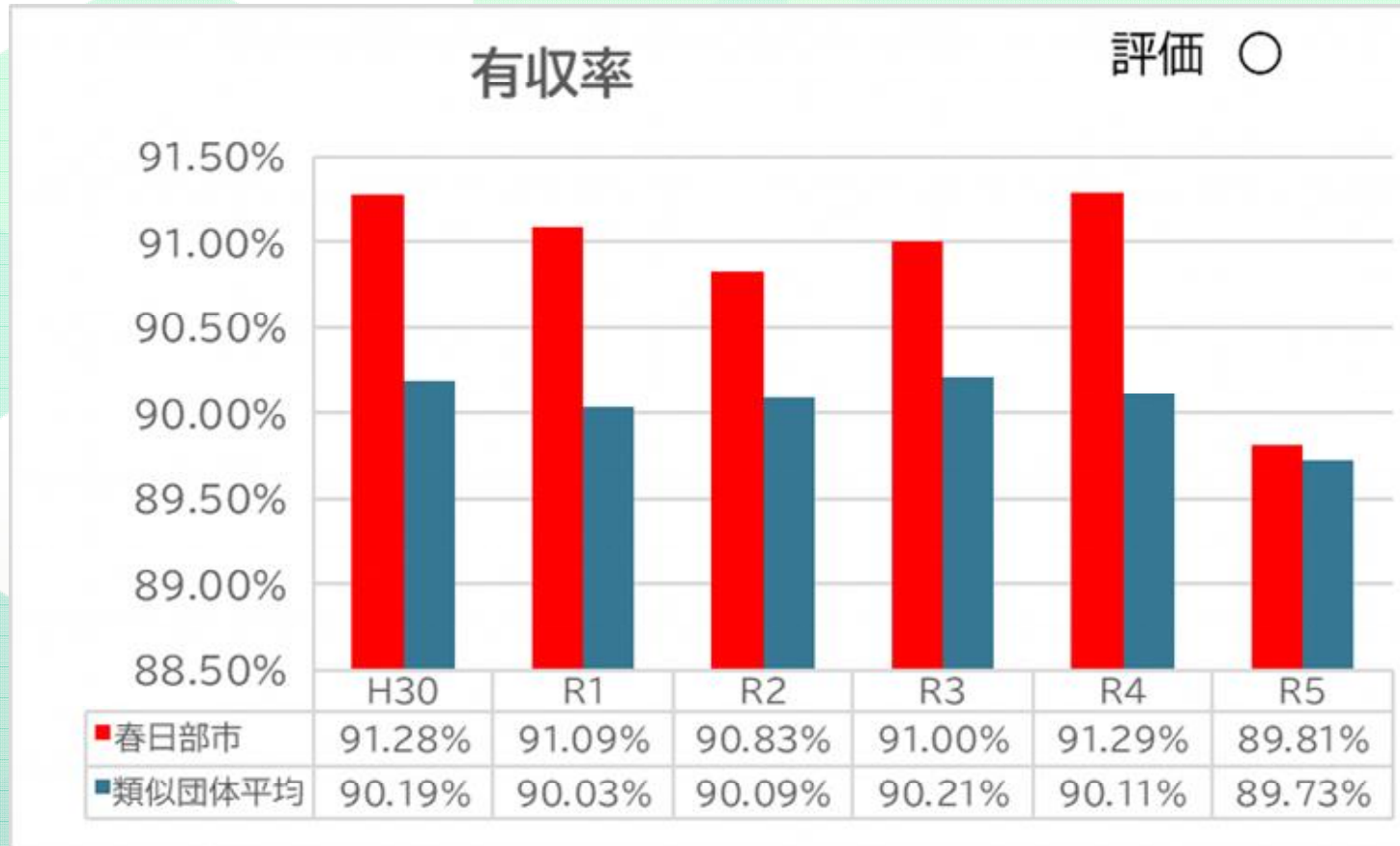
水道施設の配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、平均的な施設の稼働割合を表す指標です。

この指標が高いほど、水道施設を効率的に運用でき、良好な状況にあることを表します。

過去6年間で類似団体平均を上回って推移していますが、近年は下降傾向にあることから、今後の配水量の動向を見据えたうえで、効率的な施設運用に努める必要があります。

2. 経営指標から見た分析⑧ (類似団体平均と比較)

有収率 (単位：%)



水道施設から配水した水量に対する料金徴収の対象となった水量の割合であり、配水した水から効率的に給水収益を得られているかどうかを表す指標です。

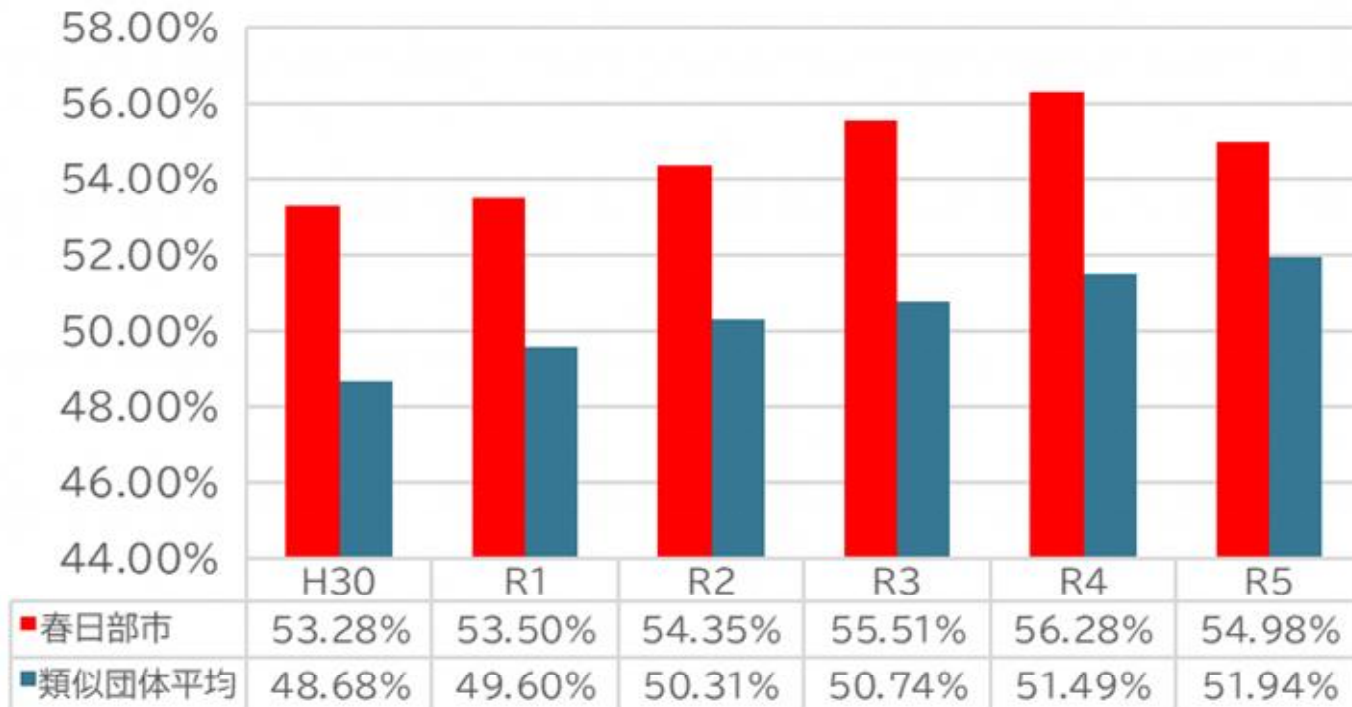
この指標が高いほど、配水した水から効率的に給水収益を得られており、良好な状況にあることを表します。

過去6年間で類似団体平均を上回って推移していますが、令和5年度に低下しており、漏水調査や老朽管更新などの対策に引き続き努める必要があります。

2. 経営指標から見た分析⑨ (類似団体平均と比較)

有形固定資産減価償却率 (単位：%)

有形固定資産減価償却率 評価 ×



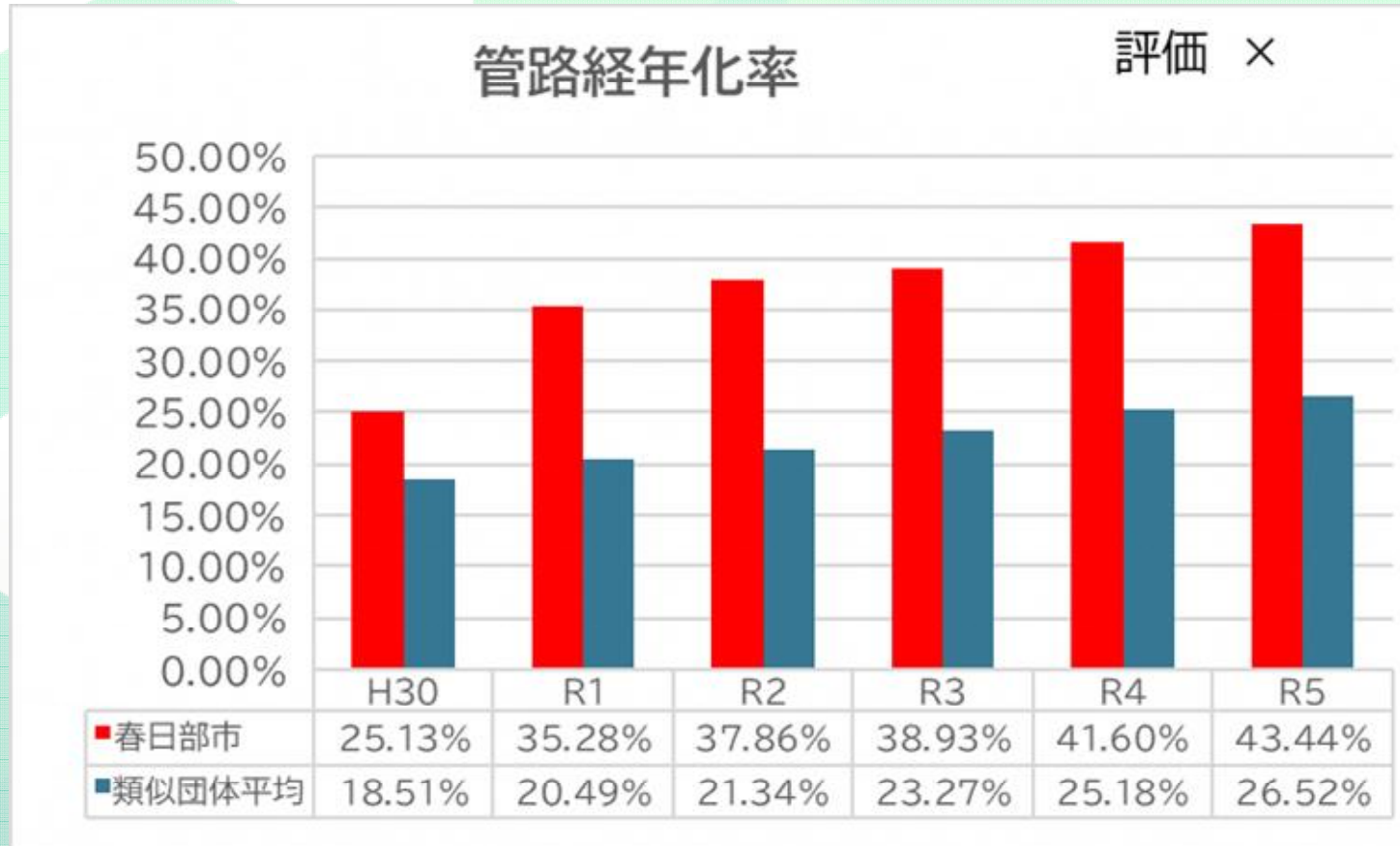
水道施設や管路などの有形固定資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表し、有形固定資産の老朽化度合いを示す指標です。

この指標が低いほど、水道施設の老朽化が抑えられ、良好な状況にあることを表します。

過去6年間で類似団体平均を上回って推移しています。更新が必要な有形固定資産が増えていることから、引き続き計画的に更新を図っていく必要があります。

2. 経営指標から見た分析⑩ (類似団体平均と比較)

管路経年化率 (単位：%)



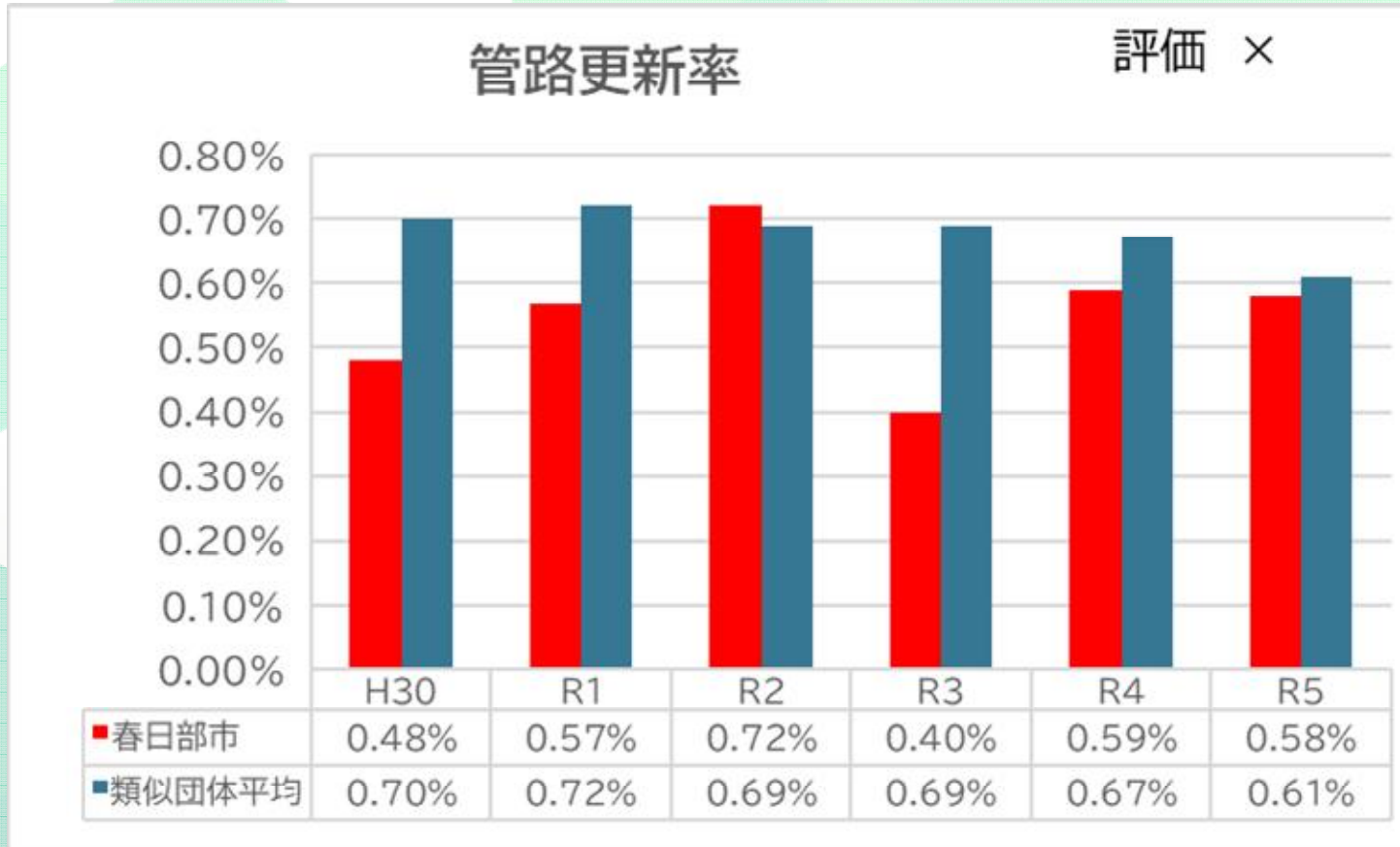
水道管の総延長に対する法定耐用年数を超過した管路延長の割合であり、管路の老朽化度合いを示す指標です。

この指標が低いほど、法定耐用年数を超過し、更新が必要な管路が少なく、管路が健全に保たれていることを表します。

過去6年間で類似団体平均を上回って推移し、増加傾向が続いていることから、管路更新の必要性が一層高まっています。

2. 経営指標から見た分析⑪ (類似団体平均と比較)

管路更新率 (単位：%)



水道管の総延長に対する1年間に更新した管路延長の割合であり、管路更新のペースを示す指標です。

この指標が高いほど、1年間に更新した管路が多く、老朽管の更新により積極的に取り組んでいることを表します。

過去6年間では概ね類似団体平均を下回って推移しています。今後も更新が必要な管路が増加していく見通しであることから、一層、計画的に管路更新を進めていく必要があります。

2. 経営指標から見た分析まとめ (類似団体平均と比較)

○経営の健全性・効率性

水道施設を効率的に運用し、経費の縮減に努め、資金も一定程度確保しながら、企業債を抑制して更新事業を実施している一方、経常収支比率、料金回収率は類似団体平均より低く、今後増加する見通しである更新事業の財源確保のためにも、収益の確保とコストの縮減を図ることが必要になります。

○老朽化の状況

更新が必要な水道施設及び管路が現状においても多く、加えて、管路更新率よりも管路経年化率の上昇割合の方が高い(更新のペースが追い付いていない)ことから、これまで以上に更新事業に着手していく必要があります。

上記を踏まえ、今後の更新事業実施に向けて、収益を向上させるための財源確保策の検討とコストの縮減を図っていく必要があります。

3. 目標値の達成状況①

| | 目標項目 | 単位 | 策定当時 平成28(2016) | 目標値 | | 実績値 令和5(2023) | 達成 状況 |
|--------|-------------------------|-----|--------------------|-----------|-----------|------------------|----------|
| | | | | 令和4(2022) | 令和9(2027) | | |
| 安 全 | 水安全計画の見直し | — | 策定済み | 毎年見直し | | 見直し済 | 達成 |
| | 浄水の水質検査結果 | — | 全て基準値内 | 全て基準値内 | | 全て基準値内 | 達成 |
| | 井戸の維持管理 (内部クリーニングなど) | — | 数年に1か所 | 年間1か所 | | 0か所 | 未達成 |
| | 総トリハロメタン 濃度水質基準比率 | % | 45.8 | 40.0 | 40.0 | 72.3 | 未達成 |
| | 各末端監視局の 最小水圧 | MPa | 0.1 | 0.15以上 | 0.15以上 | 0.10 | 未達成 |
| | 水質検査結果の 提供 | 回/年 | 1 | 6 | 12(月1回) | 11 | 達成 |

井戸の維持管理については、他の重要設備の更新・修繕を優先的に実施する必要があったことに加え、井戸自体が比較的良好な状態に保たれていたため、内部クリーニングなどの特別な維持管理を実施しませんでした。

総トリハロメタン濃度水質基準比率については、夏季における井戸水内の有機物増加による水質の悪化及び酷暑の影響における管内水温上昇に伴う濃度の上昇によるものです。

各末端監視局の最小水圧は、末端監視局近辺で一時的な水需要の高まりにより減圧となったものです。

3. 目標値の達成状況②

| | 目標項目 | 単位 | 策定当時 平成28(2016) | 目標値 令和4(2022) | 実績値 令和5(2023) | 達成 状況 |
|--------|--------------------|----|--------------------|------------------|------------------|----------|
| 強 靱 | 配水池の耐震化率 | % | 79.8 | 79.8 | 79.8 | 達成 |
| | 浄水場数 | か所 | 5 | 5 | 5 | 達成 |
| | 施設及び設備の 修繕計画の策定 | — | 未策定 | 策定 | 見直し中 | 達成 |
| | 基幹管路の 耐震化率 | % | 31.6 | 40.7 | 41.0 | 達成 |
| | 電源供給停止時の 訓練の実施 | — | 毎年1回実施 | 毎年1回実施 | 年1回実施 | 達成 |
| | 応急給水設備の 維持管理 | — | 年1回実施 | 年1回を継続的に実施 | 年1回実施 | 達成 |

各項目とも令和4年度の目標値を達成していますが、耐震化や災害訓練など、継続的に取り組んでいく項目になります。

3. 目標値の達成状況③

| | 目標項目 | 単位 | 策定当時 平成28(2016) | 目標値 令和4(2022) | 実績値 令和5(2023) | 達成 状況 |
|--------|--------------------|----|--------------------|------------------|------------------|----------|
| 持 続 | アセットマネジメントの 見直し | — | 策定済み | 見直し | 見直し中 | 達成 |
| | 有収率 | % | 91.8 | 93.5 | 89.8 | 未達成 |

アセットマネジメントについては見直しを図っており、目標を達成しています。

有収率は、漏水調査や老朽管更新を行っていますが、策定当時より低くなっており、目標値との乖離が生じています。不明水対策などを検討する必要があります。

4. 水道施設整備における基本方針①

安全

基本目標：安全で安定した水道水の供給

(1)安全で安定した水道の維持

- ①水安全計画の活用
- ②水質管理体制の維持
- ③水源施設の継続的な維持管理

(2)安全でおいしい水道を目指して

- ④末端水質の改善
- ⑤末端水圧の維持
- ⑥わかりやすい水質情報の提供

4. 水道施設整備における基本方針②

強 靱

基本目標：災害対策の充実

(1) 強靱な水道施設づくり

- ① 耐震化の推進
- ② 施設運用の効率化
- ③ 施設・設備の延命化及び更新
- ④ 管路更新・耐震化の継続

(2) 災害時への対応

- ⑤ 電源供給停止時の対応
- ⑥ 災害対応体制の維持

4. 水道施設整備における基本方針③

持 続

基本目標：経営の健全化

(1)健全な水道事業運営

- ①アセットマネジメントの見直し
- ②適正な料金体系の検討

(2)効率的な事業運営

- ③事業運営の効率化

(3)持続可能な水道

- ④漏水防止対策の継続
- ⑤水道事業広域化の検討
- ⑥再生可能エネルギー導入の検討